

Q & A

さんこう じょうほう ていきょう

Q

A

にほん　つく　きょう　か　しよ　とく　ちよう

まず、日本の教科書の特徴

● 対象とする学習者について

普通、日本の教科書は、日本で日本語を学ぶ人々を対
 象に制作されています。日本での学習者は、日本語を毎
 日使う機会がありますし、日本の社会・文化についても、
 基礎的な知識を持っています。また、今後も生活を通し
 ていろいろな体験をすることができます。しかし、海外
 の初級学習者の多くは、教室の外で日本語を使う機会
 はありません。また、日本へ行ったことのない学習
 者が多いだろうと思います。

日本語による説明
にほんご せつめい

日本の教科書は、文法解説、練習問題の指示が日本語
にほん きょうが しょう はんぼうかいせつ れんしゅうもんだい しじ にほんご
で書かれていることが多いので、海外における初級前半
か かい かいがい しょきゅうぜんはん
段階の学習者には負担が重いと思います。

最近では、少数ですが、英語以外の言語（たとえば、
中国語、韓国語、タイ語、インドネシア語など）で説明・
解説のある教科書も出版されています。

例：海外技術者研修協会編『新日本語の基礎Ⅰ、Ⅱ』
 文化外国語専門学校編『文化初級日本語Ⅰ、Ⅱ』

🌀 **取り上げられている場面**
と あ ば めん

日本にほんで作つくられた教科書の会話文を見ると、日本での生せい活かつや仕し事じに必要な場ば場ばうが多く見受みうけられます。したがっつて、日本語使用場ば場ばうが日本とは異いなる海かい外がいの学がく習しゅう者しゃにとっては、現げん実じつ的てき、実じつ際さい的てきではない場ば場ばうもあります。

比較文化的要素

日本の教科書の場合、著者のほとんどは日本人です。
にほん きょうかしょ ば あい ちよしゃ にほんじん

日本文化についても日本人の視点から見て、外国人学習
にほんぶんか にほんじん してん み がいこくじんがくしゅう

者に必要だと思われる要素が選ばれています。一方、海
しゃ ひつよう おも ようそ えら いっぽう かい

外の日本語を母語としないノンネイティブ教師（以下
がい にほんご ば こ きょうし いか

NNT）やそこに長く住んでいる日本人が作った教科書
なが す にほんじん つく きょうかしょ

はその国の文化と日本文化が対照的に述べられていると
くに ぶんか にほんぶんか たいしゅうてき の

いう特徴があります。

図 1 はニュージーランドの教科書です。自国と日
本が対照的に述べられています。



☒ 1 “ Getting there in Japanese ~ Land & People ~ ”
(Heinemann Education、1994年) p.17より

● 日本人教師用にできている
にほんじんきょうしゅう

日本の教科書は多くの場合、日本人教師（NT）が使
うことを前提に作られているので、NNTには使いにく
い点があります。たとえば、教師用指導書は、普通、日
本語で書かれていますし、説明内容もNT向けなので、
NNTには理解しにくいことがあるでしょう。

